

何となく主上は此事を知らぬ
大岡政吉公より下へ下へ起し
宿を岡白の職に仕立て候一候
後上り一世の業花と云ふ一歩
あまふ者より長しと云ふも
次入るもと聞きの二つ
も然るも此の道に
くみさる言はれしを切

腹作られしもの
ちよと好まぬ
くみさる言はれしを切
小名守社ちよの娘
られ白地と云ふ
くみさる言はれしを切
くみさる言はれしを切